



(一般質問終了後、本会議場にて傍聴された方と記念撮影)

【齋藤知事 答弁】

私は、「百年後にも誇りに思えるふるさとやまがた」を県民皆様とともに創り上げるために、「やまと改革」に情熱と信念を持って取り組んできました。約三年前の知事就任時、私は、表面上取り繕つて「齋藤はいい人だ」と言われるよう、将来、「あのときは苦しかったが、やつておまいりました」と振り返りたいのです。この考え方及び決意と覚悟には現在でもいさかり、将来的にはPRをするなどの施策をどのように講じていかれるのか、ご所見を伺います。

政治とは、「弱者や困っている人の為にある」と私は教えていただいています。県民の痛みをどうにかしておられるのかご見解を伺います。

私は、「百年後にも誇りに思えるふるさとやまがた」を県民皆様とともに創り上げるために、「やまと改革」に情熱と信念を持つて取り組んでまいりました。約三年前の知事就任時、私は、表面的に見ると「齋藤はいい人だ」と言われるようになります。この考え方及び決意と覚悟には現在でもいさかり、将来的にはPRをするなどの施策をどのように講じていかれるのか、ご所見を伺います。

そして三月五日の質問当日、緊張はしていましたのですが、多くの後援会の方から傍聴にお越しいただいたことが大きな支えとなり、無事質問を終えることができました。誠にありがとうございました。

二月定例会でおこなった一般質問の内容と、執行部の答弁を要約して記載させていただきますので、ご一読いただければ幸いです。

県議会二月定例会が二月二十二日から、三月十九日までの会期で開催され、初めて一般質問の機会を得ることができました。私は、「少しでも皆様の声を伝えたい」という基本姿勢のもと、本年一月から質問内容を懸命に考え、整理しながら準備しました。

そこで一年が経過しました。これまで活動してきたのも、皆様のご支援のお陰と心から感謝申し上げます。

県議会二月定例会が二月二十二日から、三月十九日までの会期で開催され、初めて一般質問の機会を得ることができます。私は、「少しでも皆様の声を伝えたい」という基本姿勢のもと、本年一月から質問内容を懸命に考え、整理しながら準備しました。

模津博士の一般質問要旨

◆山形県議会のホームページから、質問と答弁状況の録画が、下記アドレスよりご覧いただけます。

<http://www.pref.yamagata.jp/assembly/>



(議会録画画像より一般質問の状況)

県民ニーズへの対応について

【齋藤知事 答弁】

①厳しい財政状況の中、比較的手のつけやすい投資的な予算が集中して削減されています。その結果、各市町村では、地域間の活性化に向けた道路網や、安心して暮らせるための治山・治水など、大幅に遅れている箇所・案件も多くでてきています。また、県内の景気回復が進まない中、景気浮揚策などを講じるよう多くの方から要望されています。改革により、憔悴している県民の気力と体力を養うことが大事であります。県民が元気になります。県税収を増加させる施策が必要であると考えています。

県の考え方や取り組みを積極的に発信していくことは当然のことですが、県民ニーズや県づくりの課題を的確に把握し、県民と共に実現するにあたっては、行政運営の透明化や情報公開の推進により、皆様の声を幅広く聞くように心がけてきました。しかし、県民の皆様と一緒に問題ではまだ十分ではありません。今後は、職員がこれまで以上に自ら現場に出向き、県民と共に考え行動する「現場主義」を一層徹底していく必要があります。

また、私自身もこれまで以上に県民皆様の声に耳を傾けながら信頼に応えてまいります。

②県民の生活と県政に対する県民のニーズ、意識などを把握し、今後の県政施策に活かすため実施した「新世紀やまがた課題調査」が昨年末に公表されました。その結果、重点施策をまとめた「〇六年三月に定めた県政の指針『やまがた総合発展計画』についての認知度は一割に満たないという結果がありました。

また、県が取り組む施策別項目調査では、仕事と育児とを両立できる環境が整備されているかとの問い合わせに対して、約73%の県民が「整備されていない」または、「されていると思わない」と答えています。このことは「子育てるなら山形県」を掲げて、県民の生活向上に真摯に取り組んでいるにもかかわらず、施策が一人歩きをして県民不在となっているのではないかでしょうか。県民の幸せのために、これらの施策をどのように浸透させしていくのか、知事のご所見を伺います。

②県民の生活と県政に対する県民のニーズ、意識などを把握し、今後の県政施策に活かすため実施した「新世紀やまがた課題調査」が昨年末に公表されました。その結果、重点施策をまとめた「〇六年三月に定めた県政の指針『やまがた総合発展計画』についての認知度は一割に満たないという結果がありました。

また、県が取り組む施策別項目調査では、仕事と育児とを両立できる環境が整備されているかとの問い合わせに対して、約73%の県民が「整備されていない」または、「されていると思わない」と答えています。このことは「子育てるなら山形県」を掲げて、県民の生活向上に真摯に取り組んでいるにもかかわらず、施策が一人歩きをして県民不在となっているのではないかでしょうか。県民の幸せのために、これらの施策をどのように浸透させていくのか、知事のご所見を伺います。

自動車・航空機関連産業の振興について

【齋藤知事 答弁】

①ものづくり産業の技術力の高い本県では、東北内の各県と連携を図り、自動車産業集積を目指して力を注いでいます。また、航空機産業についても「有機EL」「超精密加工」など本県の優位性を発揮できることから、精力的に参入していくべきであります。また、両産業とも環境に配慮した性能や安全性の向上に日々研究を重ねております。本県としても、これらの技術者の育成に積極的に取り組むことが、県内の産業界にとても大きな発展につながる極めて重要なことと考えます。

本県で学び、その技術を県内企業の発展に活かせる環境創りを構築していくべきと考えますが、商工労働観光部長のご見解を伺います。



(寒河江市議会議員時代 青森県三沢基地にて撮影)



【高橋商工労働観光部長 答弁】

自動車、航空機関連産業を始めとして「ものづくり産業」の集積促進に向けては、人材確保、育成がキーワードになることがあります。また、教育機関等関係機関相互の連携を構築のうえ、さらなる取り組みをしてまいりたい。